



第 34 号

2024年(令和6年)7月

発行所

社会福祉法人 聖家族会

発行責任者 西村和子

編集 広報委員会

☎859-0167長崎県諫早市

小長井町遠竹2727番地3

☎ 0957 - 34 - 4520

FAX 0957 - 34 - 4521

みんなありがとう

社会福祉法人 聖家族会 理事長 西村 和子

約4年間の新型コロナウイルス感染症から解放され、ほぼ普通の生活にもどっていることでしょう。この約4年間で体験したことは、カトリック教会そして他の宗教団体でも同じでしょう。困難がある時祈禱会などが行われることが多いはずですが、しかし宗教的行事さえでなくなりました。状況になり。地球は一つ、人類みな兄弟と言うようにつながっているという事をしみじみと感じました。

クラスターが起きるとそこが報道され一番最初に感染した人はどれほど苦しい思いをしたことでしょうかと思います。どうなっていくのだろうかと不安な気持ちもありました。また色々な

ことが急激に変化したこと。誰も抵抗できずに新しい変化を求められた時でした。みさかえの園の施設も4つの施設が情報交換だけではなくお互いに助けあうことの大切さを学びました。

世界中が力を合わせ、命の大切さを感じながら祈りの中で、みんな頑張ったから今があると思います。神様に感謝を捧げ、「みんなありがとう」とお互いに感謝の心を持つ時が来たことを感じます。

「いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい。」

Iテサロニケ5章16〜17節

みさかえの園 創始者

Sr.中山の愛聖句

1825日・後期高齢者の5年

前法人事務局長 森 信一郎



令和元年6月1日から、ちょうど5年間「みさかえの園」に勤務させて頂いていただきました。スタートが64歳、自分なりに朝早くから仕事するなど工夫をしてみました。思いつくこと行動することも50代のようには成せなかったと振り返っています。また、その間3年はコロナ禍で人生の中でも経験したことのない窮屈な生活を強いられました。今となつては思い出になりました。

冬の遠竹地区はスタッドレスタイヤなしでは通勤できないと教えられ、今年も3月末まで付けていましたが、実際に立つのは2、3日の話です。小長井の牡蠣もガンガンの焚火で焼いてもらってご馳走になりました。今年の春は田原産タケノコを毎日のように食べていた気がします。

あゆみの家の旧建物、マリア寮、エリザベト寮、ヨゼフ寮、ドクターハウス、付随して存在する倉庫等ほとんど解体してしまい、法人研修会館の周辺は運動会ができれば空き地にしてしまいました。太陽光発電の検討もしましたが、採算が合わない

いとの計算が出たので止めました。温泉を試掘する夢も見ました。

5年仕事して最も感じたのは、聖家族会という法人が政治や、社会に対して、中立だったことでした。一般社会では「法人」とはいえ、創業家の人々、株、権限を重く保有している人が、圧力、無言のプレッシャー、付度を、職員に求めることがあります。「みさかえの園」ではそのような体験をすることがありませんでした。60年の歴史の中ではいろんな苦労もあったとは思いますが、中立的な姿勢(理念)は大切に守るべき財産だと言えます。仕事はスピードをもって、システム(組織)で動き、笑顔を忘れずお願いします。皆様のご健勝を祈っています、お世話になりました。

「老朽化による設備等の更新」

みさかえの園のぞみの家

施設長 田中 伸一

のぞみの家は1995年(平成7年)6月に全面改築整備を行い29年が経過しています。建物はもちろんのこと、電気設備や空調、配管設備などの付属設備も老朽化し修理を要する機会が増えています。改築当初からある高圧受変電設備と非常用発電機は、老朽化(29年経過)による絶縁不良も予測されることから今回更新することとしました。

全館空調の動力源であるボイラーは、部品が製造中止となっており、2基あるうちの1基は2023年(令和5年)10月に修理不能となっています。残りの1基も同年製造で修理を繰り返しており、いつ修理不能となってもおかしくない状態です。ボイラーを更新するには高額な費用が掛かる上、建物内の空調配管が老朽化し、冷温水の通日も悪く冷暖房の効きがあまり良くないので更新はしないことに決めました。

代わりとして、利用者の皆様の生活に支障をきたさないよう、今年度より単独エアコン(省エネ型)への更新工事を始めています。居室をはじめ廊下や食堂など施設全体を単独

エアコン(多種58基)へと更新します。これにより、今までと違い温度や湿度管理もできるようになり、快適な施設での生活を提供することができるようになっています。利用者の皆様も「自分の部屋にはいつエアコンがつくの?」と心待ちにされているようです。支援への影響を最小限とし迷惑が掛からぬよう細心の注意を払い、6月中には竣工できる予定です。

今回の空調設備等の更新工事を施工するにあたり、昨年、みさかえの園のぞみの家育友会互助会様から賜りました多額の御寄付(お志)を使わせていただきますことをご報告申し上げますとともに、温かいご支援に改めて心より厚く御礼申し上げます。



園内行事



「のぞみの家に入社して」

みさかえの園のぞみの家
生活支援員 深堀 美奈

日々のお勤めお疲れ様です。4月からのぞみの家で働かせて頂いております。

同施設での勤務は、26年振りになります。あの頃の思い出を頭に思い巡らせながら利用者にお会いいたしました。再び出会えた喜びと共に時の流れというものを感じた初日。

それからあっという間の2ヶ月、時の流れの速さに反する私の技術力……。

しかし、そこは頼りになる先輩方に助けられながら、初心を忘れることなくこれからも頑張っていこうと思います。



「わくわく広場に勤務して」

諫早こどもデイサービスわくわく広場

保育士 東山 陽奈

今年度の4月からわくわく広場での勤務となりました。これまでに私が経験してきた保育園や療育施設とは違う親子療育に緊張と不安が沢山あるスタートでした。まず、通っている子ども達一人ひとりの個性、親子関係の把握、そして支援ポイントの把握から始まりました。支援を必要としている子どもたちが、どこで困っているのかを知り、困っている本人がどのような方法で気持ちを伝えられるのかを職員間で話し合い、声掛けの統一を行なう。支援の中でタイミング良く黒子となり気持ちの表現方法を伝える。相手に伝わったその瞬間の喜び、学び、成長を近くで一緒に感じられる嬉しさを感じました。

また、子ども達と生活を共にしている親御さんとの関わり方も様々なので、親御さんのことも把握したうえで関わり、「頭で理解していても上手く関われない」、「自分自身がいつぱいいつぱいで子どもとの相手をできていないことが多い」等の悩みを聞いていくうちに、毎日たくさんさんの悩みの中で一生懸命に我が子と向き合おうと努力している親御さん達の姿が見えてきました。そんな親御さんが、わくわく広場へ通ううちに、以前よりも子ども達との信頼関係が築け、子ども達への声掛けの仕方に

変化が見られる等の目に見える感動と喜びを感じています。まだまだ、緊張と不安の中にいる私ですが、優しい先輩スタッフに支えられ、助けられながら少しずつリーダーとして前に立つ機会が増えてきました。親御さんにみられながら個性あふれる子ども達をまとめるという、保育園とはまた違った大変さを身を感じながらも、子ども達の成長する瞬間を見逃さないようにしたいと思います。これから先に子ども達が、わくわく広場で学んだことを活かし、集団生活を楽しく送れるよう、私なりに考え、工夫し、先輩スタッフにアドバイスをもらいながら、より良い支援を提供できるよう努めていきます。そして、親御さんと子ども達と共に、一步一步成長していきたいと考えています。



みさかえの園 児童発達支援センター

「保護者会」

児童発達支援センターでは昨年より少しずつ、「保護者会」など保護者参加の行事を企画し、保護者との交流や情報共有等に取り組み始めています。

今年度は、5月に保護者会、夏休み期間にスマイリーフェスタ(夏祭り)、秋には運動会と家族を交えた行事等を企画しています。今回は、5月31日(金)に行われた「保護者会」を紹介したいと思います。

今年度は、「障害福祉サービス報酬改定」が行われ、利用時間の設定や入浴や送迎にかかる加算の見直し、意思決定支援の観点から個別支援会議への本人参加など、多くの改定が行われました。それを受けて児童発達支援センターに関わる制度の変更点の説明を行いました。今回の改正では重症心身障害児(者)や医療的ケア児にとっては、特に配慮された改定となっているようです。

次に、サービス管理責任者より今年度より義務化になった「障害児通所事業における安全計画の策定」の説明を行いました。計画作成において年間スケジュールをたて実施する項目が①安全点検②マニュアルの策定③児童、保護者への安全指導④研修⑤再発防止となります。重症児・者や医療的ケア児が利用されているセンターでは、特に送迎時や外出時、入浴等の設備を含む点検やマニュアル

ル等の見直しを行ってま

また、前年度の活動報告を映像や写真を使用しながら行いました。利用者様が外出含め様々な活動に参加されながら満面の笑顔の写真を紹介することで「これを楽しみに来た」と家族からも喜びの声が聞かれました。

最後に、所長や主治医を含めた家族との懇談会を行い、それぞれの家族の思いや悩みなどを話してもらいました。ご家族からは「いつまで在宅生活が続くだろうか……」「入所するタイミングは?」「将来に向けていつから短期入所を始めたほうがよいのか?預かってくれる所はあるか」など、施設入所に関する悩みが多く聞かれる一方で「いつまでも一緒に暮らしたい」という親の気持ちも伺えました。所長より「親には親の、こどもにはこどもの人生がありますよ」といわれながらも家族の「葛藤」を感じさせられる懇談会となりました。

今後もスタッフ一同、利用者の意思決定を大切に家族に寄り添った支援を継続していきたいと思っています。



島原一周 160キロの旅

グループホームりん

永瀬 昌子

初夏の日差しが眩しかった5月3日、大型連休の初日にグループホームりんではお楽しみ企画として島原半島へバスドライブに向かいました。デイスペースあんととの共同企画で、スタッフも顔なじみの顔ぶれという事もあり、出発前から利用者の方々もワクワクしていました。

バスの中では長距離移動も退屈しないよう詳しく日程の説明があった後すぐに懐メロイントロクイズがありました。皆さん若かりし時代に良く聴いていたという事もあって、職員共に大盛り上がりでした。

そうこうしているとあつという間に最初の目的地「原城温泉 真砂」に到着！真砂では遠くに天草まで見える眺めの良い大広間に豪華な昼食が準備され、ステキな景色に「わぁー」、美味しそうな食事にも「わぁー」と各々感動しながら着席

しました。食事中は皆さん黙々と食べられ、一番静かな時間だったかもしれません(笑)。食後は少人数のグループに分かれ、温泉を楽しまれる方、近くの原城跡までウォーキングされる方、休憩所でゆっくりされる方でひと時を過ごしました。

お昼からは次の目的地「有明フラワーパーク」に向かって出発しました。真砂を出発する時には「また来たいねえー」と皆さん口々に言われ満足されていた様です。「有明フラワーパーク」ではきれいな花々や可愛い小動物に癒されながらしばらく過ごしていましたが、その日はとても暑く、後半の時間はみんなで木陰に集まりおしゃべりの花を咲かせていました。

帰り道、皆さんお疲れになった様子で若干口数少なくバスに乗車されていましたが、「また行きたいですか？」の問いかけには「また行きたい」「楽しかったー」と大きな声で返事をされていました。

次のお出かけに期待しながら一日を終りました。



<原城温泉 真砂到着>



原城跡：天草四郎
像の前で記念撮影



有明フラワーパークにて
ヤギと触れ合ったり、木陰
での散策も楽しい思い出



皆で昼食「いただきます」

ニースタイルはマスクスタイル？

あゆみの家施設長 平松公三郎

新型コロナウイルス感染症が5類の扱いとなつて1年がたち、巷では多くの人がマスクを着用することなく生活するようになりました。マスクなしの方がコミュニケーションは良くなることでしょう。外すことによるメリットも考えねばなりません。振り返ると、あゆみの家では、この1年の間に、新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生だけでなく、インフルエンザウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症、RSウイルス感染症の流行と短期間に多種類のウイルスによる流行がみられました。これからも、感染対策をとりつつ、施設内での生活を支えなければなりません。

数あるウイルス等と共に過ごす新たな生活（ニースタイル）には、職員による手指消毒とマスクの使い方が鍵になると考えます。多用している不織布マスクは、病原体をもらうことをブロックするには一定の効果があり、病原体をうつすことをブロックするには大いに役立つツールです。生活の場面に応じてマスク着脱の使い分けをしつつ生活するスタイルがこれからのニースタイルとなるのではと考えつつも、感染発生を前に外すことに悩む日々が続いています。

ICT委員会活動について

看護部 奥村佳寿子

重症児者病棟は「医療の場」と「家庭的な生活の場」をあわせ持つため「感染症が発生しやすく重症化リスクが高く」なります。

あゆみの家のICT委員会は多職種で活動しておりその活動内容は多岐にわたりますが、手指衛生の徹底病原体別の感染対策マニュアル改訂環境ラウンド等を特に強化しています。

感染対策は相手（病原体）が目に見えないため、ともすると不十分だったり、逆に過剰すぎたり等になりがちです。ICTでは講義・研修などで各委員の専門的知識の向上を図り、全国標準の対策に取り組んでいます。知識だけでなく、例えば新型コロナウイルスに対しては職員へ迅速検査キットを配布し本人・家族の症状出現時は検査をおこなって病棟に持ち込まないようにしたり、感染発症時に直ちに病棟内動線を組み立てるなど「行動」を意識しています。

あゆみの家ではこの一年でも新型コロナウイルスに加え、インフルエンザ等複数の感染症の流行がありました。その都度感染対策委員会を開催し、「行動を伴う」対策で早期終息に繋げてきました。

今後も職員の感染対策について意識の向上を図り、利用者・職員を守る感染対策に取り組んでいきたいと考えています。

見つめているのは…



表情もやわらぎます

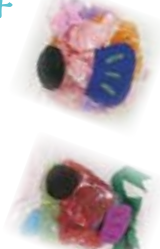
こいのぼりの群れ！



こいのぼり制作



個性が溢れました



あそびのひろば

児童福祉週間の取り組みとしてはじめて「あそびのひろば」今年で3回目の開催となりました（2024年5月1日）



釣りゲーム



魚だけでなく金太郎に鬼、いろいろなものが釣れました！



お話の部屋

大型絵本の読み語りをしました



来年も楽しいこどもの日が迎えられるように…

ワークスペースあん

「ワークスペースあん」は、平成23年10月1日に開設し、まもなく13年目を迎えます。

利用者さんの平均年齢も49.1歳となり高齢化や重度化の波には逆らえませんが、日々の仕事(作業)を通して「働く喜び・生きがい・達成感」を感じて頂きたいと日々の就労支援を担当しています。その為には就労意欲(モチベーション)の向上が不可欠であり毎月(11月除く)の行事は、その役割を担っています。事前の情報提供に始まり外食メニュー、オヤツ、お土産購入など話題は拡がり徐々に期待感が増して行き、事業所全体の一体感が感じられます。沢山の笑顔と「美味しかった、楽しかった、また行きたい、今度は〇〇へ行きたい」という声が聞かれ、工賃支給に対しても「働いて工賃稼ぎたい、美味しいもの食べたい」等と連鎖して行きます。今年度は令和6年度～令和8年度までの3か年における目標工賃を設定し「事業所工賃向上計画」(平成25年度分から3年毎実施)を作成・提出しています。各年度の目標工賃が達成出来る様に利用者さんと一緒に楽しく頑張りたいと思います。

(サービス管理責任者：門脇直子)

秋のバス遠足：吉野ヶ里歴史公園



日帰り旅行：初詣



日帰り旅行：メルヘン村



笑
顔

春の会：道の駅鹿島



<ワークスペースあんのプチ自慢>

・作業収益の主力である育苗(野菜苗・花苗・玉葱苗)においては、「土作り」から始まります。近隣の山へ落ち葉集めにいきます。

この作業が品質向上を支えています。



「第46回長崎県ゆづあいスポーツ大会」

みさかえの園めぐみの家
生活支援員 永渕賢一郎

令和6年5月19日(日)諫早市多良見町にあります「なごみの里運動公園」にて「第46回長崎県ゆづあいスポーツ大会」が開催されました。天候にも恵まれ、県内からたくさんの方の皆様、職員の方、ボランティアの方、多くの御来賓の方が参加されました。

コロナの関係でここ数年は開催されませんでした。去年は半日、そして今年は昼食をはさんで終日開催となり、以前のスポーツ大会に少しずつ戻ってきているようです。

めぐみの家からは3名の利用者様が選出種目(パン取り競争)に参加され、楽しく取り組みました。暑すぎるほどの快晴でしたが、体調不良や怪我等もなく無事に終えることができました。スポーツ大会を通じてたくさんの方と交流ができた、とてもよいイベントとなりました。



パン取り競争に出場しました！！

「めぐみの家と仲間へ感謝」

みさかえの園めぐみの家
調理師 高見 浩一



めぐみの家に入社して2年が経ちました。実は、私は以前、めぐみの家に勤めていましたが自分の都合で退社してしまい、めぐみの家と仲間にご迷惑をおかけしました。それから4年が経ったところ、またご縁があり、お世話になることになりました。入社当時は4年前のことでもありますので緊張していましたが、施設長はじめ、皆さんはあたたかく迎えてくださいました。その時の感謝の気持ちは忘れません。

これからも、その時の気持ちを忘れず、調理を通して利用者様に喜ばれる食事を提供していきたいと思えます。それと、仲間とのチームワークを大切にしていきます。

「毎日の日々の中で」

みさかえの園めぐみの家
看護師 峯 礼子

めぐみの家に入社し、9か月が経ちました。医療の現場から施設へと新しい場所へやってきましたが、私はすでに〇〇歳。最初は覚えることも多く、続けることができるのかと不安でいっぱい、仕事でもミスをして落ち込む毎日でした。でも、そんな日々の中で利用者様の笑顔に救われています。私にできることは本当に限られていると思います。利用者様がいらっしゃるおかげで、こうして仕事をさせていただいています。また、先輩職員の方々のやさしい言葉かけやアドバイスに本当に感謝です。これからも利用者様が安心して笑顔で生活できる場所であるように、小さな力ではありますが、努力していきたいと思っています。



「多様性」

みさかえの園めぐみの家
看護師 横田由加里

陽の当たる場所でゆっくり寛いでおられる方。にこやかに他の方と一緒に過ごされる方。ご自分のペースで歩き続ける方。様々な方が住まう家。

障害があっても日常を自分らしく過ごしていらつしやいます。喜怒哀楽、感情も豊かです。「みんなちがって、みんないい」「自由」「我がまま(われがまま)」自分らしくあるがままに。

初めは少し距離を感じましたが、それはその方の事を知らないことからだと知り得ました。鍵を持ち歩き、施設する事も要因だったように思います。しかし、それも利用者様を守る事であると認識しました。『多様性』『チャレンジド』取り巻く世間も少しずつ変わってきているようです。私は、多様な「個」が自分らしく生き、その能力を発揮できる環境を整える。「個の多様性」を認め、尊重する事を学んでいます。

素直な感情のまま生きておられる。たくさんの方・物に囲まれて守られて生きていく。そんな家での生活を守る一員でありたいと思います。

令和 5 年度 決算報告

貸借対照表

令和 6 年 3 月 31 日現在

科 目	金額(千円)
資産の部	
流動資産	2,224,094
固定資産	9,280,015
(基本財産)	4,171,886
(その他の固定資産)	5,108,129
資産の部合計	11,504,109
負債の部	
流動負債	333,718
固定負債	5,737
負債の部合計	339,455
純資産の部	
基本金	690,604
国庫補助金等特別積立金	115,026
その他の積立金	3,233,545
次期繰越活動増減差額	7,125,479
(うち当期活動増減差額)	91,293
純資産の部合計	11,164,654
負債及び純資産の部合計	11,504,109

事業活動計算書

自 令和 5 年 4 月 1 日 至 令和 6 年 3 月 31 日

科 目	金額(千円)
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	4,331,875
サービス活動費用計	4,259,906
サービス活動増減差額	71,969
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	22,081
サービス活動外費用計	137
サービス活動外増減差額	21,944
経常増減差額	93,913
特別増減の部	
特別収益計	9,337
特別費用計	11,957
特別増減差額	△ 2,620
当期活動増減差額	91,293
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	7,370,186
当期末繰越活動増減差額	7,461,479
積立金取崩額	166,000
積立金積立額	502,000
次期繰越活動増減差額	7,125,479

資金収支計算書

自 令和 5 年 4 月 1 日 至 令和 6 年 3 月 31 日

科 目	金額(千円)
事業活動による収支	
事業活動収入計	4,344,304
事業活動支出計	4,040,281
事業活動資金収支差額	304,023
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	7,121
施設整備等支出計	326,618
施設整備等資金収支差額	△ 319,497
その他の活動による収支	
その他の活動による収入計	166,000
その他の活動支出計	502,000
その他の活動資金収支差額	△ 336,000
当期資金収支差額合計	△ 351,474
前期末支払資金残高	2,295,355
当期末支払資金残高	1,943,881

・端数処理の関係上、合計額と一致しない場合があります。

令和 5 年度 苦情解決委員会報告

- 苦情解決委員会・第三者委員に報告すべき苦情はありませんでした。
- 意見・要望について以下のようなものが寄せられ、各施設・事業所にて対応しました。

分類	件数
① ケアの内容に関わる事項	1
② 個人のニーズ（嗜好・選択）に関わる事項	1
③ 環境・設備に関わる事項	0
④ 事務に関わる事項	0
⑤ スタッフの接遇に関わる事項	1
⑥ その他	0
合計	3



社会福祉法人聖家族会のホームページはこちらの QR コードからご覧いただけます。
<https://misakae.or.jp/>